2018年 11月
33号

番町瓦版

ばんちょうかわらばん

三番町通りより不二を望む図
（『風俗画報』臨時増刊第191号 / 東陽堂 / 1899年、日比谷図書文化館所蔵）

特集

明治150年、学びの秋

維新を境に大きく変わった町 番町歴史さんぽ

一連載一

第4回 麹町小学校卒業生リレーインタビュー

東京の中心、番町から世界を知る

江戸から維新を経て明治へ 番町エリアの歴史に迫る

1868（明治元）年の明治維新からちょうど150年を迎えた今年。歴史の大きな転換期となった我が国全土と同様に、番町エリアにとっても、150年前は大きなターニングポイントでした。節目の年である2018（平成30）年の学びの秋に、江戸から明治にかけての歴史の足跡をたどってみるのはいかがですか？ きっと、知っているようで知らない地元の成り立ちを知る、いい機会になるはずです。

江戸城のお膝元であり、さらに幕府の守衛の要であった創成期から、明治維新を経て、新たな街の装いを見せる近代まで、番町エリアの至るところに歴史の痕跡は残っています。それらを巡る歴史さんぽは、歴史あるこのエリアが未来に向けてどうあるべきか、考えるきっかけを作ってくれるかもしれません。

歴史案内人

千代田区立日比谷図書文化館
文化財事務室学芸員
高木 知己さん

長年にわたり区の歴史調査や、区内にある文化財保護の仕事に従事。以前は四番町歴史民俗資料館に勤務され、番町地区の歴史も詳しく教えていただきました。

日比谷図書文化館

日比谷公園内にあり、ミュージアムでの展示や、貴重な文化財資料も所蔵する複合文化施設です。

所 千代田区日比谷公園 1-4
☎ 03-3502-3340
URL https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

江戸初期〜幕末

江戸城を守る番士の町＝番町として成立

特集

明治150年、学びの秋

番町歴史さんぽ

維新を境に大きく変わった町

今から150年前の明治維新を機に大きく変わった番町エリア。町の原型が形作られた江戸時代と、新たな時代の幕開けとともに発展を遂げた明治以降、各時代を映すそれぞれの地図を見比べながら、歴史さんぽに出かけてみませんか？

長く続いた江戸時代において、江戸城のお膝元である番町地区が果たした役割は、非常に大きかったんですよ。

高木さん

市ケ谷門跡

市ケ谷駅前の交差点にあった江戸城三十六見附のひとつ。1639（寛永16）年完成。今も交番があり、変わらず治安を守る要衛です。橋を渡って釣り堀へ続く脇道に、当時の石垣が残ります。

江戸歴史散歩コーナー

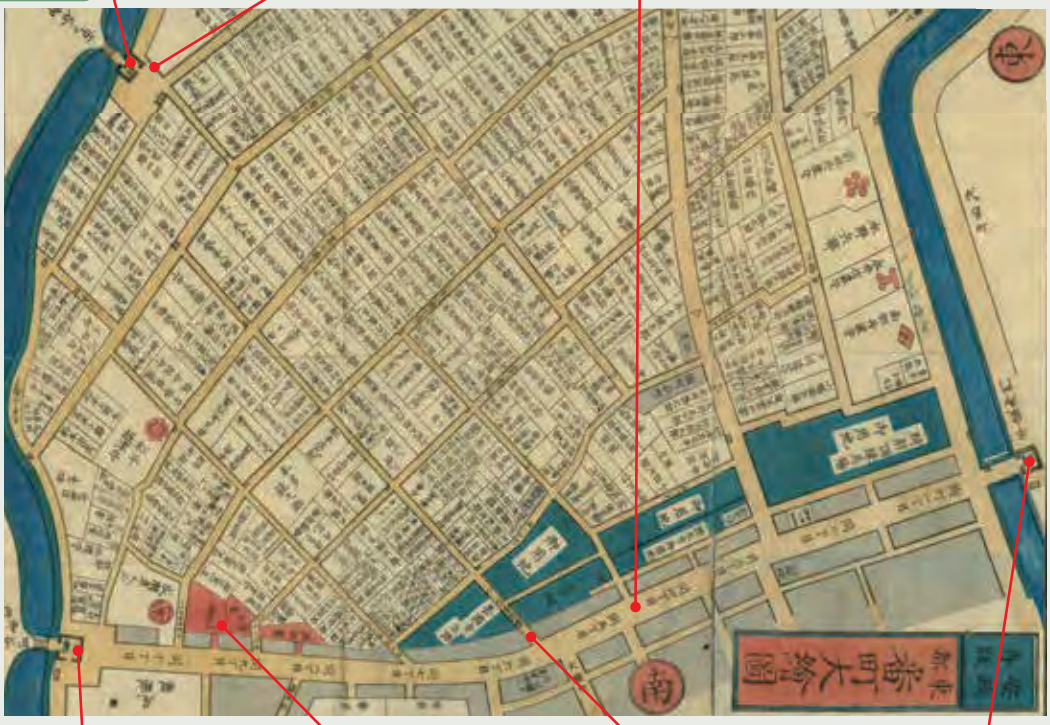
東京メトロ南北線の市ケ谷駅構内にある、南北線工事に伴う発掘調査をもとにした展示施設。移築された石垣をはじめ、江戸の絵図の複製や水道網の様子を展示。解説板も充実しています。

麹町大通り

甲州街道は半蔵門を起点に、今の麹町大通りがスタートでした。甲府まで131kmという標識からも、当時を偲ぶことができます。番士たちは、江戸城の西側を守る大切な存在でした。

1858（安政5）年

出典：『御江戸番町絵図　全』（日比谷図書文化館所蔵）



四ツ谷門跡

江戸城三十六見附のひとつとして、1639（寛永16）年に完成。甲州街道から江戸に入る要衛として、重要な役割を担っていました。今では四ツ谷駅付近に当時の石垣が残ります。

心法寺

1597（慶長2）年、家康とともに三河国から江戸に入った然翁聖山上人が開山。本堂右手には、1676（延宝4）年鋳造の鐘があります。檀家のほとんどが町人の、大衆的なお寺でした。

善国寺坂

麹町大通りから市ケ谷駅方向に下る坂で、現在は日テレ通りとしても親しまれています。江戸時代は地図にも記載がある善国寺というお寺の門前通りとして賑わっていました。

半蔵門

江戸城の西門として、1627（寛永4）年に建造。大手門の裏手で、厳重な防備体制が敷かれていました。従来の門は東京大空襲で焼失、現在は和田倉門の高麗門が移築されたものです。

江戸城守衛の番士たちが住む武家屋敷が立ち並ぶ住宅街

1590（天正18）年、関東に入国した徳川家康は、江戸に後の幕府となる拠点を置きます。その際に江戸城護衛のため、家康は城の内堀と外堀の間のエリアに、戦いの際に力を奮う「番士」を多く住まわせました。なかでももともと高台だった今の番町地区は、多くの番士たちが住んだため、番士の町、「番町」と呼ばれるようになりました。

江戸城にとって半蔵門は、表門の大手門の反対側に位置する言わば裏門であり、万が一城から逃れざるを得ない状況になってしまった有事の際には、非常口の役割も担っていました。当時の甲州街道は半蔵門を起点としており、最初は番町の番士たちの警護を受けながら、新宿百人町の鉄炮隊、八王子千人同心と、進むにつれてそれぞれ護衛を増やしながら、甲州に逃れる計画だったのではないかとされています。

250年以上続いた江戸時代を通じて、番町エリアは、城を守る番士たちの武家屋敷が密集する重要な地区として成立していきました。

主な年表

1590(天正18)年
家康が関東に入国

1597(慶長 2)年
心法寺開山

1600(慶長 5)年
関ヶ原の戦い

1603(慶長 8)年
家康が江戸に幕府を開く

1627(寛永 4)年
半蔵門が完成

1639(寛永 16)年
市ケ谷門・四ツ谷門が完成

1657(明暦 3)年
明暦の大火で江戸城天守焼失

1853(嘉永 6)年
黒船来航

1867(慶応 3)年
大政奉還

1868(明治元)年
明治維新

1872(明治 5)年
英国公使館(現大使館)開館

1890(明治23)年
女子学院が新築移転

1894(明治 27)年
滝廉太郎が移住

1901(明治 34)年
与謝野鉄幹・晶子夫妻が移住

1908(明治 41)年
大妻コタカが家塾を開設

1910(明治 43)年
泉鏡花が移住

1923(大正 12)年
関東大震災

明治以降 ← 150年前 **18 明治**

文化・教育・国際色豊かな町へと発展

番士たちに代わって新たな時代の番町地区を担ったのは、文化人や教育者、そして、外国からやってきた人々でした。

高木さん

与謝野鉄幹・晶子夫妻旧居跡

情熱的な歌人として知られる与謝野晶子が、夫の鉄幹との結婚生活 10 年目、明治ロマン主義『明星』発刊の翌年にあたる 1901 (明治 34) 年に移住。2 人は 4 年間ここで暮らしました。

滝廉太郎旧居跡

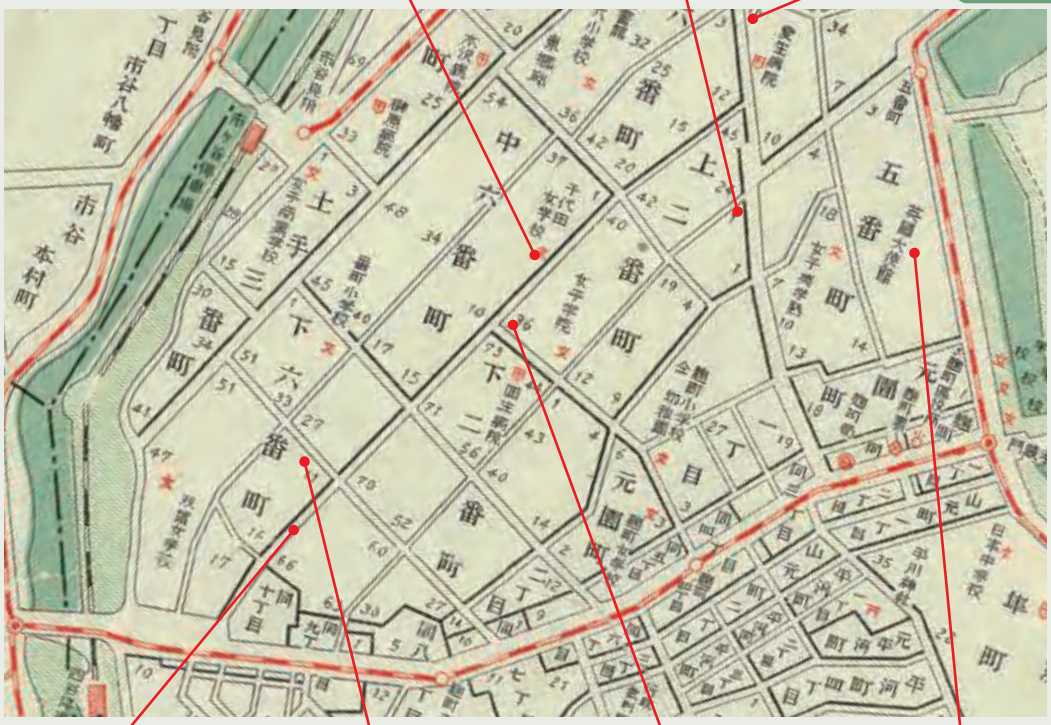
明治の代表的な音楽家・滝廉太郎が、1894 (明治 27) 年ごろから 1901 (明治 34) 年までこの付近に居住。『花』、『荒城の月』、『鳩ぽっぽ』など、名曲の多くがここで作られました。

大妻学院

女子教育界の草分け、大妻コタカが、1908 (明治 41) 年に裁縫・手芸の家塾を開設したのが始まり。コタカの教え「恥を知れ」を教訓に、女子中・高・大学生が学んでいます。

出典：『地籍地図附地籍台帳』麹町区
(日比谷図書文化館所蔵)

1912(大正元)年



番町文人通り

島崎藤村、泉鏡花、与謝野鉄幹・晶子夫妻など数々の文学者が暮らした、麹町大通りと大妻通りを結ぶ 1km ほどの通りの通称。各所に解説入りのモニュメントが設置されています。

泉鏡花旧居跡

1910 (明治 43) 年から 66 歳で没するまでの約 30 年間にわたり、泉鏡花が愛妻すずと暮らした旧居跡地。『夜叉ヶ池』や『天守物語』などの名作はここで執筆されました。

女子学院

1870 (明治 3) 年、女性宣教師ジュリア・カロゾルスにより設立された A 六番女学校に始まる中高一貫校です。1890 (明治 23) 年に現在地に新校舎を新築、日本の初期女子教育を担いました。

駐日英国大使館

1872 (明治 5) 年、東京で公使館用地を探していた英国公使が、お堀沿いの元大名屋敷を政府に提供されて開館。1898 (明治 31) 年に桜が植えられ、千鳥ヶ淵の桜の植樹が盛んになりました。

番士たちの残した屋敷がやがて新たな町の発展の礎に

江戸城無血開城は、番町エリアにとっても大きなターニングポイントに。住民の大部分を占めた番士たちは、城を守るという使命がなくなり無職状態に陥ってしまいました。結果、彼らは番町から離れていき、武家屋敷は空き家が目立ち始め、やがて、新たな住人に入れ替わりました。

一般的な武家屋敷の構成は、主が住む母屋と、家臣などが住む長屋に分かれていました。そして、新たな屋敷の主たちは次第に、必要のない長屋を安く貸し始めるのです。そこに目をつけたのが、当時はまだ名もない後の文豪や文化人。神保町周辺が出版街として成立していたこともあり、彼らは番町の長屋で作品を書いては坂を下り、出版社に持ち込んでいたと言われています。

また、3 つあった大名屋敷などの跡地は、イギリス公使館（のち大使館）として利用。国際色豊かなエリアにも変貌します。さらに、女子校を中心に学校施設も作られ、教育の町として発展。それらは脈々と受け継がれ、現在の番町に至るのでした。

麹町小学校だより

—第４回—

麹町小学校卒業生 リレーインタビュー

谷 勇伸（ゆうじん）さん

2006年卒業。麹町幼稚園の学習生活支援員などを経て、現在は練馬区の小学校で特別支援学級の担任を務める。麹町在住。

麹町小学校の現在の校舎が完成したのは、谷さんが小学校4年生のとき。仮校舎で過ごした日々や、新校舎の思い出などをうかがいました。

１９９３年に永田町小学校と合併した麹町小学校は、新校舎建設のため２０００年３月から２００３年３月まで旧永田町小学校の校舎を仮校舎としていました。谷さんが麹町小学校に入学したのは、仮校舎に移転した直後の２０００年４月。入学式も仮校舎で行われ、１年生から３年生まで仮校舎で学びました。

「旧永田町小学校は自由民主会館（自民党本部）の前にあり、僕の家からは国道２４６号を渡らなければなりませんでした。子どもの通学には危ないという両親の考えで、スクールバスがなくなった２年生と３年生の間は、道路の横断を避けるために麹町から永田町のひと駅だけ電車通学をしていました。」

４年生になり新校舎が完成したときは、自宅から近くなったことがうれしかったという谷さん。当時の麹町小学校は今よりも児童数が少なく、１学年２クラスを想定した設計の新校舎は全国でもめずらしい斬新な造りだったと振り返ります。

「教室は廊下側の壁がないオープンスペースになっていて、１年生から６年生まで一斉に給食が食べられる〝ランチルーム〟もありました。給食の時間に毎回全校集会を開いているような壮観な雰囲気でしたよ。」

新校舎を彩るこうした特徴的なスポットには、生徒からアイデアを募って愛称が付けられたそうです。谷さんのお気に入りは玄関の吹き抜けでしたが、卒業後は児童数の増加にともない増改築が繰り返され、吹き抜けはなくなってしまいました。

「ランチルームも今は２学年しか収容できないという話を聞いたりすると、母校に生徒が増えてうれしい反面、昔の風貌が失われつつあることをさびしく感じたりもしますね。」

谷さんは大学の児童教育学科を卒業後、麹町小学校に併設の麹町幼稚園に勤めていたこともあり、麹町小学校とのつながりを大切にしています。特に小学校高学年のときに担任だった先生とは交流が続いていて、谷さんが教育者になったことを喜んでくれているそうです。

「障害のある子どもの教育に携わりたいと思い、麹町幼稚園に１年間勤務したあと大学で特別支援教育を学びました。ゆくゆくは地元の子どもたちのために働けたらと思っています。」

次回は
市村 昭宏（いちむら あきひろ）さん

東京の中心、番町から世界を知る

ハワイってどんな場所？

一番町にあるハワイ州観光局。観光局発のクイズに答えてハワイを知ろう！

Q1 もっとも有名なハワイ語「ALOHA」の意味ってなに？

A こんにちは！　B ありがとう！
C さようなら！　D いろいろな意味がある

Q2 ハワイ州で最大の面積の島は？

A オアフ島　B ハワイ島　C マウイ島　D カウアイ島

Q3 常夏の楽園、ハワイでも雪は降る？降るとしたらどこで降る？

A 降らない　B キラウエア
C ダイヤモンド・ヘッド　D マウナケア

Q4 もともとはポルトガルが発祥で、今ではハワイを代表するローカルスイーツは何？

A アサイボール　B マラサダ
C パンケーキ　D クリームパン

クイズの答え

Q1 D

もっとも有名なハワイ語「ALOHA」は５つのハワイ語の頭文字を合わせたものです。AKAHAI（アカハイ / 思いやり）、LOKAHI（ローカヒ / 協調性）、'OLU'OLU（オルオル / 喜び）、HA'AHA'A（ハアハア / 謙虚）、AHONUI（アホヌイ / 忍耐）の５つで、アロハ・スピリットの根源となっています。

Q2 B

"Big Island" とも呼ばれるハワイ島は、面積約１万平方キロメートルを誇るハワイ州最大の島。四国の半分ほどの大きさで、１周するには車でノンストップでも６～８時間かかります。ちなみに、ホノルル、ワイキキがあるオアフ島は、ハワイ島、マウイ島に次いで３番目の大きさです。

Q3 D

常夏のイメージがあるハワイですが、実はさまざまな気候が共存します。有名なケッペンという学者が提唱した気候区分で分けると、世界にある 17 の気候区分のうち 15 が存在するのだそう。ハワイ島マウナケアは、ハワイ語で "白い山" という意味で、標高 4000 メートルの山頂付近は雪が積もります。

Q4 B

砂糖がまぶしてある揚げパンのような甘いお菓子がマラサダ。行列ができるレナーズ・ベーカリーをはじめ、ハワイを代表するローカルスイーツとして知られていますが、実はもともとポルトガルが発祥のお菓子です。100 年以上前にやってきたポルトガル人の移民たちが広めたと言われています。

アメリカ合衆国ハワイ州
State of Hawaii

太平洋の真ん中に浮かぶ常夏の楽園。年間 150万人以上の日本人が訪れる大人気海外旅行先で、真珠湾攻撃の舞台となるなど歴史的な関わりも深いです。グルメ、ショッピング、アクティビティなどお楽しみが満載。ぜひ、一度訪れてみて！

次号 1月中旬発行

発行：日本テレビ通り振興会　協力：日本テレビ
プロデューサー：P.M.A. トライアングル（谷本 裕英）
編集制作・取材・執筆：P.M.A. トライアングル
（吉井 康平、長谷川 みほ、佐藤 俊介、牧田 麻彩香）、
達 弥生
撮影：P.M.A. トライアングル（鱸居 龍一）
デザイン：アトムスタジオ（鈴木 聖恵）

お問い合わせ：日本テレビ通り振興会
「番町まちづくり広場」運営事務局
エリアワークス（株）
☎ 03-6380-8306
✉ bancho-machihiro@areaworks.jp